

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201587		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム服織 1F		
所在地	静岡県葵区羽鳥2丁目15-50		
自己評価作成日	H27.9月21日	評価結果市町村受理日	平成27年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/22/index.php?action kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2274201587-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階
訪問調査日	平成27年9月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけ手をかけず自分でできることは自分でやって頂く介護でありたいと思っています。ちょっとした配慮 声掛け等で できること やれることが増えていく。その過程を本人 家族 職員等チームで考えられるホームでありたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から10年目を迎える事業所は地域に積極的に働きかけ理解を求めることで徐々に受け入れられてきている。火曜日の朝は近くのパン屋さんが焼いたパンが届き、月曜日は産みだての卵が農家から届いて朝食で食べている。町内会長は運営推進会議の予定を回覧板に載せ組長会議でも促してくれ、商店主・喫茶店主等の参加があり、会議が活発になっている。管理者と職員はカンファレンスを重ねながら利用者のできることの支援に努め、やれる人もやれない人も全員で朝の掃除をしている。職員が居室にタイムスケジュール表を貼り不穏になったら説明すると納得する等その人にあった支援で個別ケアに取り組み実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初職員皆で作上げた理念を基に新人職員も共有し実践している。	「穏やかに心豊かに過ごせる家」の理念を玄関に掲示し、入居時に家族に説明して「どう生活してほしいか」の意向を確認をしている。管理者と職員はカンファレンスで個別に検討を重ねながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加したり近隣の商店等利用し買物している。	回覧板での推進会議出席の促しで、パン屋・喫茶店の店主が参加している。近くのパン屋から火曜日に朝食用のパンが、月曜日には農家から卵が届く。近隣の人が、散歩や買い物をしていると顔を覚えて声をかけてくれる。中学生の職場体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し町内 地域包括に出席して頂き意見等反映させて頂いている。	年間計画により偶数月第4火曜日に包括職員・民生委員・介護相談員等の参加があり、開催している。町内会長は組長会議等でも出席を促していて、住民の参加があった。状況等の報告や職員研修の報告後、参加者から意見があり話し合いをしているが、利用者・家族の参加が少ない。	事業所のホームページから会議録を見て参加した家族がいたように、開かれた取り組みを行っているだけに、今後さらに利用者・家族が参加して意見が反映されるような会議になることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れの実施 生活保護の受け入れもしている為連携は取らせて頂いている。支援課ワーカーにも訪問して頂いている	生活保護受給者の受け入れをし、状態の悪化による支援課ワーカーとの連携で取り組むことはある。包括職員とは定期的に会う機会があり、連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等昼間の施錠はしていない。(夜間のみ施錠)利用者にあった対応を検討し拘束をしない対応を実施している。拘束0宣言している。	毎月ユニット毎にカンファレンスを行い、状態を見て個別に対応方法を検討している。対応が拘束につながらないかの話し合いをして、その人にあった対応で見守り、自由に普通に暮らせるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等の話は職員間で出たりする為認識はできている。職員間で注意したりしている		

静岡県(グループホーム服織 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している利用者がある為理解はしている。勉強会も実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約 退居時は管理者がご家族に説明 同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を実施している。又面会時になにかあれば話を伺ったりさせて頂いている。	家族に事業所から伝えたいことがある場合は必ず来所を依頼し、直接家族の意向を聞いている。玄関の意見箱は本社が開ける仕組みで、内容は聞いている。遠くの家族から「行事を知りたい」の要望があり、年間行事を送るようになった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等があれば管理者が聞き管理者会議で提案する場はある。	職員はレク企画・事故・記録・防災・食事・物品保管管理・研修等の委員になっていて、各委員会で出た意見が反映される仕組みがある。物品の購入希望も1万円未満であれば検討して即対応、以上であっても稟議書を上げ概ね叶えられるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思われませんが。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	努めていると思われませんが。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者独自に取り組みをしている。報告はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人が自分で話せるようであれば本人の意向を聞いています。会話等できなければ普段の生活の中からコミュニケーションを図りながら汲み取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階でお話を伺っている。又入居後その都度話を伺い必要であれば面談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを活用している。又本人 家族の意向 家族状況も考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするという観念から会話の理解がある程度できる場合はきちんと説明することを心掛けている。一緒に洗濯物をたたんだり家事の手伝いを行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの新聞で月1近況報告している。又面会時も同様近況報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にお話を伺ったりしている。又面会にみえたりして頂いている(近所の方)。	同級生や元住んでいた近所の人などの訪問があり、職員はお茶を用意し、居室でゆっくり話せる支援をしている。電話や手紙の支援も要望のある人にはしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月行事があり利用者同士交流をしている。外食等も兼ねて。階違いでも交流を図っている。		

静岡県(グループホーム服織 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を知らせてくれるご家族もいる。なにかの折に面会に行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思い意向は極力考慮しているが添えないこともある。困難の場合は極力配慮したりご家族に聞いたりもしている。	利用者が言葉で伝えられる要望は、「家に帰りたい」は家族に連絡し家に帰る、食事の希望があれば取り入れるなど、その都度検討し叶えられるよう支援している。伝えにくい場合は家族から生活歴等を聞き取り、日々のアセスメントから把握に努め検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にお話を聞いたりアセスメントをしっかり取り取ることを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夕方落ち着いた利用者タイムスケジュール表を作り部屋の壁に貼り本人にわかるよう対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心としケース会議を月1開いている。	月1回ユニット毎にカンファレンスを行い、当日出席できない職員からは前もって意見を聞いている。3ヶ月に1度見直しをし、状態が変化した時は担当者会議をカンファレンスと一緒に医師や看護師・家族が参加して開き、担当職員・本人の意見要望を聞いて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入しプランのモニタリングをしている。その際情報の共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化に伴い対応は柔軟に変えておりその人にあったサービスを支援している。		

静岡県(グループホーム服織 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店の活用		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅訪問診療を活用している方 ご家族が付き添って受診される方がいますが病院とは連携ははかれています。	以前からのかかりつけ医に受診の人もいるが、概ね今年4月から「在宅療養支援診療所」である協力医のクリニックに変更し、月2回往診がある。歯科の協力医に職員と一緒に受診し、心療内科等の他科受診は家族が同行で通院して結果は双方で聞いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1訪問看護が入っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の連携室とは関係作りはしている。医師からの説明は必要であれば同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時にお話しはしているがご家族はその場になっていない為実感がないことも少なくはない。	入居時に指針を説明していて、食事が取れなくなった時点で、なぜ食べられないかを職員で検討して家族の意向を確認し、医師の判断で医師・看護師・家族・管理者で話し合うことになっている。看取りの経験はないが、終末期についての勉強会を前回の目標達成計画にあげて取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師さんに勉強会をお願いし開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでの防災訓練 地域の防災訓練に参加している。	火災・地震の昼間・夜間を想定した訓練を年2回行い、1回は消防署が来所し2階から滑り台で利用者を降ろす訓練や、避難場所への移動のアドバイスをもらっている。近隣の住民に推進会議で協力を依頼していて、訓練を見てもらったり、地域へ事業所を避難場所として提供することを伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できる限り配慮し対応しているが他人に迷惑をかけるようなことは注意している。	管理者と職員は、利用者が毎日「穏やかに心豊かに普通の生活をして欲しい」「人として対等」との思いから、年長者として尊敬の念を持って対応するように心掛けている。日常的に不適切な対応が見られた時は管理者が注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方は少なく思いも実際には難しいこともあるが添うように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の動きをみながらその方のペースで対応できるようにしているがその日によってできない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選択できる方は自分で選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむという観念がない方が多いと一緒に家事をしたり片付けもしたりしている。	全職員が交代で三食とも手作りしている。利用者が朝のチラシを見て「ファストフードが食べたい」の声があれば献立を変更したり、「刺身が食べたい」の希望を聞いて注文することもある。職員は見守りし声掛けしながら一緒に同じ物を食べている。野菜の皮むきや食器拭きなどできる人がやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方にあつた水分確保 栄養摂取等考慮している。(メイバランス プロテイン等)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に合った歯ブラシを提供している。毎食後歯磨きは声掛け 介助等で行っている。		

静岡県(グループホーム服織 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し声掛けや誘導を行っている。リハビリパンツから布パンツに変えていく支援もしている。	紙パンツの使用を減らそうと排泄パターンにより支援をすることで、オムツから布パンツに変わった人もいる。職員は布パンツで排泄する人を見守りしたり、できないところの介助をして自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージ 体操等の取り入れ 食事での工夫等 又下剤の投与により対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴嫌いな方もいるので試行錯誤している。又その方の能力にあった援助をしている。	毎日風呂を沸かし、10時から16時位の時間帯で希望や入浴表からの促しで入浴している、毎日入る人もいる。強く拒否する利用者には声掛けに工夫をし入浴できる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休みたい方には休んで頂くようにしている。状況にあった 状態にあった対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅管理指導の導入 申し送りの徹底により服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できるだけ家事は利用者と一緒にするようにしている。歌が好きの方が多いため歌番組歌のビデオ等がかかり楽しみながら観ている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出希望されている方 外食希望の方等極力できるよう配慮している。	天候を見て近くの散歩や中庭・駐車場での外気浴をしている。お弁当持参で公園や海等に行ったり、レクリエーションで動物園や花見、希望により回転すし等の外食にも出かけている。家族と受診の帰りに買い物や外食に行く人がいる。	

静岡県(グループホーム服織 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額程度は家族同意の基持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分でご家族に手紙を書いたりしている方はいる。又月1の服織新聞に書ける方には手紙を書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁に季節にあったものを利用者として貼り貼ったりしている。	玄関に季節の生花を飾り、中庭で花や野菜を作っている。一日中エアコンで管理しているので、朝は窓を開けて換気し、季節の風を感じながら全員で清掃をしている。広い廊下や共用空間には随所にベンチやソファを置いている。円背の人の安全を考慮し、テーブルの角をクッション材でカバーしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置 座席も考慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を貼ったり置いたり自分で工夫されている方もいます。又転倒のリスクも配慮し家具の配置は考慮している。	混乱を招く為ベッドの位置は変更せず、状態の変化で動線を考え家具を配置し、生活しやすい工夫をしている。エアコン・洗面台・クローゼットは備え付けで、ベッド・筆筒・テレビ等の他、防災カーテンは持込みになっている。ひ孫の手紙や愛犬の写真を貼ったり、簾・塵取りの掃除道具を掛けている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が認識できないのでお手洗いと表示したり自室のところに本人の写真を掛けたりしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201587		
法人名	(株)日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム服織 2F		
所在地	静岡市葵区羽鳥2丁目15-50		
自己評価作成日	H27.9月21日	評価結果市町村受理日	平成27年10月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaiyokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2274201587-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけ手をかけず自分でできることは自分でやって頂く介護でありたいと思っています。ちょっとした配慮 声掛け等で できること やれることが増えていく。その過程を本人 家族 職員等チームで考えられるホームでありたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) <input type="radio"/>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) <input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) <input type="radio"/>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) <input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) <input type="radio"/>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) <input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) <input type="radio"/>	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) <input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) <input type="radio"/>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) <input type="radio"/>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う <input type="radio"/>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) <input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初職員皆で作り上げた理念を基に新人職員も共有し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加したり近隣の商店等利用し買物している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し町内 地域包括に出席して頂き意見等反映させて頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の受け入れの実施 生活保護の受け入れもしている為連携は取らせて頂いている。支援課ワーカーにも訪問して頂いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関等昼間の施錠はしていない。(夜間のみ施錠)利用者にあつた対応を検討し拘束をしない対応を実施している。拘束0宣言している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等の話は職員間で出たりする為認識はできている。職員間で注意したりしている		

静岡県(グループホーム服織 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している利用者がある為理解はしている。勉強会も実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約 退居時は管理者がご家族に説明 同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を実施している。又面会時になにかあれば話を伺ったりさせて頂いている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等があれば管理者が聞き管理者会議で提案する場はある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思われませんが。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	努めていると思われませんが。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者独自に取り組みをしている。報告はしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人が自分で話せるようであれば本人の意向を聞いています。会話等できなければ普段の生活の中からコミュニケーションを図りながら汲み取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談の段階でお話を伺っている。又入居後その都度話を伺い必要であれば面談している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを活用している。又本人 家族の意向 家族状況も考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にするという観念から会話の理解がある程度できる場合はきちんと説明することを心掛けている。一緒に洗濯物をたたんだり家事の手伝いを行っている。本人にできることはできるだけ本人にやって頂く		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームの新聞で月1近況報告している。又面会時も同様近況報告している。本人にとってなにがよいか今後どうしていくのかご家族と話し合うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族にお話を伺ったりしている。又面会にみえたりして頂いている(同級性など)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎月行事があり利用者同士交流をしている。外食等も兼ねて。階違いでも交流を図っている。利用者同志の関係性も考慮し席の配置も決めている。		

静岡県(グループホーム服織 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近況を知らせてくれるご家族もいる。なにかの折に面会に行くこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思い意向は極力考慮しているが添えないこともある。困難の場合は極力配慮したりご家族に聞いたりもしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にお話を聞いたりアセスメントをしっかり取り取ることを心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケースに1日の出来事等記入し必ず職員はケース記録を読み把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心としケース会議を月1開いている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に記入しプランのモニタリングをしている。その際情報の共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化に伴い対応は柔軟に変えておりその人にあったサービスを支援している。		

静岡県(グループホーム服織 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお店の活用		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅訪問診療を活用している方 ご家族が付き添って受診される方がいますが病院とは連携ははかれています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1訪問看護が入っている。なにか聞きたいことがその都度連絡を取り指示を頂く		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の連携室とは関係作りはしている。医師からの説明は必要であれば同席している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時にお話しはしているがご家族はその場になっていない為実感がないことも少なくはない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師さんに勉強会をお願いし開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームでの防災訓練 地域の防災訓練に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	できる限り配慮し対応しているが他人に迷惑をかけるようなことは注意している。居室に入る際はノックをする。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方は少なく思いも実際には難しいこともあるが添うように支援している。わかる方には聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の動きをみながらその方のペースで対応できるようにしているがその日によってできない時もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選択できる方は自分で選んでいる。2か月に1度床屋さんに来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しむという観念がない方もいると一緒に家事をしたり片付けもしたりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の拒否がある方には飲み物の種類を変えたり容器を変えたりし水分摂取が確保できるよう考慮している。水分チェック表も活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシをその方に合ったものにしてている。拒否がある場合でも1日1回はやれるよう声掛けしている。		

静岡県(グループホーム服織 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し声掛けや誘導を行っている。リハビリパンツから布パンツに変えていく支援もしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部マッサージ 体操等の取り入れ 食事での工夫等 又下剤の投与により対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴嫌いな方もいるので試行錯誤している。又その方の能力にあった援助をしている。毎日入浴されたい方は毎日入浴されている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中休みたい方には休んで頂くようにしている。状況にあった 状態にあった対応をしている。天気の良い日は布団干ししている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅管理指導の導入 申し送りの徹底により服薬支援を行っている。希望があれば本人に説明書を見て頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事等個人に合わせて手伝って頂いている。レクリエーションや外出等企画し行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望されている方 外食希望の方等極力できるよう配慮している。買物もできるだけ本人と一緒に掛けている。		

静岡県(グループホーム服織 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額程度は家族同意の基持っている方もいる。近隣に買物に出掛けている方もいる(家族同意済)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分でご家族に手紙を書いたりしている方はいる。又月1の服織新聞に書ける方には手紙を書いて頂いている。電話を掛けたい方に関しては家族の都合 時間等考慮し掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の壁に季節にあったものを利用者として貼り貼ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置 座席も考慮している。話が合うということも視野に入れている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を貼ったり置いたり自分で工夫されている方もいます。 又転倒のリスクも配慮し家具の配置は考慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が認識できないのでお手洗いと表示したり自室のところに本人の写真を掛けたりしている。		